

オンラインセミナー「今から学ぶ病院管理医療セミナー」 の実施にあたっての課題

桑木 光太郎¹

要旨

2020年10月10、11日に久留米大学ビジネス研究所医療経営分室（以下、分室）が主催で「今から学ぶ病院管理医療セミナー」（以下、本セミナー）をオンライン形式で実施した。いくつかのトラブルが発生したが、ほとんどが運営側に起因するものであった。オンライン形式でも十分満足の得られるセミナーが開催できる可能性があった反面、対面での開催の必要性も改めて認識させられた。

本文

2020年10月10、11日の両日にわたって久留米大学ビジネス研究所医療経営分室（以下、分室）が主催で「今から学ぶ病院管理医療セミナー」（以下、本セミナー）をオンライン形式で実施した（当公衆衛生学講座は協働で参加）。企画当初は対面とオンラインの両方を活用した開催を検討していたが、新型コロナウイルス感染状況等の社会状況を鑑み、全てオンライン形式で実施することとなった。本セミナーの内容は別稿で詳細に報告されているので、本稿ではオンラインセミナー実施にあたって、問題点や今後の課題を中心に報告する。

1. セミナー当日まで

本セミナーを全てオンライン形式で開催することを決定した後は、受講者への通知はメールやホームページ上で行っていった。Web会議システムとしてZoomのビデオウェビナーを利用することとし、10月1日（セミナー開催9日前）を中心に講演者・受講者に対して接続テストを行った。接続テストでは、講演者・受講者のビデオカメラやマイクの接続設定やセミナー当日の発言の仕方などの確認を行った。また、セミナーで使用するスライドや資料は受講者が各自でダウンロードを行うこととしたが、いずれもトラブルは

1 久留米大学 医学部 公衆衛生学講座

オンラインセミナー「今から学ぶ病院管理医療セミナー」の実施にあたっての課題（桑木）

なく、事前準備を行った。

久留米大学の文意融合の一環として、セミナーの配信元を10月10日は久留米大学御井キャンパス、11日は久留米大学旭町キャンパスと設定した。そのため、事前準備に際しては両キャンパスに行き来する必要がある。配信に使うPC、ビデオカメラ、ビデオキャプチャカードの必要機材は分室メンバーの私物が中心であり、事前準備のために都度両キャンパスに運び込み設定を行ったこと、また10日のセミナー修了後に11日に備えてセッティングを仕直す等の負担が課題であった。

2. セミナー当日

新型コロナウイルス感染対策のためにオンライン形式となったことで受講者は福岡近隣だけでなく、広島県や兵庫県、静岡県、東京都等と物理的な距離と関係なく参加があった。また、講演者もセミナー会場に訪することなく佐賀県、広島県、東京都の職場または自宅等からの発表が可能であった。

10月10日は久留米大学御井キャンパス御井本館3階、132教室を配信会場として13時から17時に本セミナーを開催した。配信側のトラブルとしては、冒頭のビデオメッセージで音声配信されない事象や、複数のマイクを同時使用した影響による鳴音が発生した。いずれも、受講者からのチャットでの指摘で判明し、速やかに対応することができた。一方、74名が視聴したが、ビデオウェビナーに接続できないといったトラブルは確認されなかった。

10月11日は久留米大学旭町キャンパス教育2号館5階公衆衛生学講座図書室を配信会場として、9時から17時に本セミナーを開催した。一部の講演者のスライドが共有されないことや音声トラブルが発生したことで、予定のスケジュール通りにはセミナーが遂行されなかった。92名の視聴があったが、10日と同様ビデオウェビナーに接続できないといったトラブルは確認されなかった。

両日ともに受講者からの質問は講演者が発表中にも都度チャット機能で受け付けていた。司会者がリアルタイムに質問の内容を把握し、本編終了後速やかに講演者への質問につなぐことが可能であり、また忌憚のない質問や意見が多く出ていた。一方、発表後はオフラインになることもあり、講演者と受講者とのネットワーキングには寄与できなかった。同様に参加者同士の関係構築は難しかった。本セミナーには、医療関係者のみならず金融関連の職種を含めた様々な業種の方が視聴していたことを考えると今後の大きな課題のひとつである。

3. セミナー後のアンケート

本セミナーを受講した方に任意でアンケートに答えてもらった。遠隔地の方からはオン

オンラインセミナー「今から学ぶ病院管理医療セミナー」の実施にあたっての課題（桑木）

ラインでの良さを実感された反面、対面とオンラインの混合開催を望む意見もあった。同様に、実習や受講生相互のディスカッション形式の要望もあった。セミナーの運営に関しては段取りやイレギュラーな事態への対応などの運営側の不手際に関する指摘を多数いただき、このような形式のセミナーを今後も行う可能性が十分にあることから重要な検討課題と考えられた。

まとめ（今後の課題）

本セミナーの主なトラブルは配信側に起因するものであった。このような社会状況の中では、今後もオンライン形式のセミナーの必要性は増えるものと考えられる。配信環境の整備としてはPCやビデオカメラといったハード面の増強が必要であることに加え、通信環境の整備は重要なことと考えられる。また、対面とオンラインどちらかに偏るのではなく、うまく融合した形での運営が期待される。

参考

本セミナーの概要は以下の Web サイトのリンクからも参照が可能である。

<https://www.kurume-u.ac.jp/site/backno/20201015.html>